

国内最大 400TEU型新造船 『さがみ』 竣工!!

当社は、広島県小池造船海運において8月に進水した、総トン数2446トンのコンテナ専用船「さがみ」を京浜～東北・苫小牧航路に就航させました。本船は、積載重量3850トン、400TEU積と従来型内航コンテナ船の約2倍の積載能力を持ち、今後のニーズに対応するため、甲板上に45フィート型コンテナの積載が可能です。また、82本のリーファーコンテナを積載する能力を持ちます。

推進性能追求の為に、ALC付可変ピッチプロペラ及びプロペラボックスキャップフィン(PBCF)を装着して、常時機関出力の効率化を可能としました。また高度船舶安全管理システム(HANASYS EXPERT)を搭載して、主機のデータをインターネット回線を介して、24時間陸上から監視することによって、異常の早期発見や故障の未然防止を図ると同時に、コストの削減に結び付けます。

本船の就航する京浜～東北・苫小牧航路は、国土交通省が京浜港（平成22年に国際コンテナ戦略港湾に選定）の競争力強化の為に取り組んでいるモデル事業「内航フィーダー輸送機能強化事業」の一環として運営されています。

国土交通省によるモデル事業は、2014年3月を以て終了しますが、井本商運は事業化に向け本格的な集荷体制を整え、輸出入フィーダー貨物と国内貨物（動脈・静脈）の共同幹線輸送を可能にするを旨とし、我が国の流通のさらなる省エネ化、低コスト化、多ルート化に寄与していきます。

オンデッキ最大4段、7列積載の「さがみ」



「さがみ」 名前の由来は？

我が国の物流の主役が水運であった江戸時代に、その基幹航路である菱垣廻船や樽廻船に接続する貨物は、川舟で河口まで運ばれていました。

京浜港および阪神港を中心に据えた「国際コンテナ戦略港湾構想」の流れの中で生まれた本船には、神奈川県を流れる川の名前が相応しいと考え、相模川にちなんで「さがみ」と命名しました。

「さがみ」の建造にあたって

小池造船海運(株) 松本取締役営業部長



最新鋭船「さがみ」の就航、誠にありがとうございます。2012年に「さがみ」のご用命を賜り、井本社長の後押しで、国交省の許可を得て船台を125mに拡張した上で建造したさがみは、小池造船海運として、井本商運様向けの6隻目の船となりました。これだけの船を瀬戸の洋上に進水させるというチャンスを下さった井本社長に心から感謝申し上げます。

また、中本工務監督を始めとする方々に、数えきれないご助言を頂きながら、私共も、一隻一隻建造する度に成長させて頂いたことにつきましても、あらためてお礼申し上げます。「さがみ」が井本商運の宝船となり永遠に安全航海をされることを心より祈念しております。

高度船舶安全管理システムとは？

阪神内燃機工業(株) 田上サポートセンター長に聞く

国内最大400TEU型内航コンテナ船「さがみ」のご就航、誠にありがとうございます。新造船「さがみ」にはHANASYS EXPERT（ハンシン高度船舶安全管理システム）が搭載されています。このシステムは「さがみ」で8隻目であり、主機関に取り付けられた各高機能センサーなどでエンジンの状態を常に陸側から監視し、保守整備点検までをエンジンメーカーがサポートするシステムです。人に例えると、日々の体温や顔色また脈拍数などに加え、心電図やMRI、そして血液検査までも毎日陸側から主治医が見守っていることなのです。このシステムにより機関の不具合や不調を事前に予知・察知して重大事故を未然に防ぐことが可能となりました。そして日本の内航コンテナ物流を支える「さがみ」の安全航海を確実に支えながら、船主様の保守整備費用を削減し、各年の費用を平準化します。

このHANASYS EXPERTは「さがみ」の安全航行と井本商運(株)様の企業価値の向上を必ずや実現させるシステムです。



快適な船内

本船は、2階から6階まで各フロアに3部屋ずつ、計15部屋の船室が、完備されています。部屋の広さは、どれも13㎡以上。居住区全階にシャワー室、洗濯室、トイレを配置。全部屋大型薄型TV、洗面所が備え付けられています。



全室LAN配線を行い、無線LANも可能とした事で、船内のどこにいてもインターネット接続が可能です。

料理専任の司厨長が作った心尽くしのディナーを頂くことが出来ます。



各港で歓迎セレモニーを受ける「さがみ」



神戸港では、関係者約120人が参加。神戸市の花木章みなど振興担当局長は「大型船の導入は内航業界にとって画期的。いつか神戸に帰ってきてほしい」と期待を語った。(11月26日)

横浜港では、国交省の山縣宣彦港湾局長が駆け付けた。また横浜市港湾局の中島泰雄局長が「さがみの就航は、横浜港の新しい時代を切り開くことと期待している」と歓迎した。(11月28日)



山縣宣彦局長 中島泰雄局長



苫小牧港では、苫小牧港外貿コンテナ事業協同組合の高橋清志専務理事が「北海道の輸出拡大につながることを期待したい。大型化で荒天に強くなり、運航維持しやすくなった」と話した。(12月2日)

八戸港では、小林市長が「井本商運は、2011年3月11日のあの日から1か月余りの4月23日に震災後初となるコンテナ船を八戸に寄港していただきました。長周波のうねりで大きく揺れ動く船をタグボート2隻によって岸壁に押し付けながら困難な荷役作業を敢行していただきました。あのときのことを思うと胸が熱くなります」と挨拶した。(12月3日)



小林眞八戸市長から記念の盾を送られる



仙台塩釜港で、報道陣の取材を受ける井本社長。(12月4日)

山市船長インタビュー



安全運航の根本は、一人一人の乗組員であることへの「自覚」「責任感」「プライド」そして全員によるチームワークだと考えています。また、この意識を次世代へ継承していくことが船長としての役目だと考えています。

私自身、船長として新造船に乗船する事は初めての経験です。その分「さがみ」への思い入れは非常に強いものがあります。さがみは、船速も速く、舵効きも良い。燃料高騰の時代ですが、日々さがみと向き合い、能力を最大限に引出し、経済効率運航に努めます。最後になりましたが、井本社長、中本監督を始め、小池造船の皆様のお蔭で素晴らしい船に巡り合えたことに感謝申し上げます。

幸田機関長インタビュー



私は25年間さまざまな外・内航船に乗船してきましたが、さがみの設備の新しさには目を見張るものがあり、とても驚いています。もちろん、高度船舶安全管理システムのもとで仕事をするのは初めてのことで、日々の機関診断システム信頼性に非常に期待している一方で、陸上からの支援を上手く受けられるのか不安もあります。阪神内燃機工業の皆様と我々乗組員が一体となって努力することで、さがみ主機関を常に正常に保ち、安全運航へと導きたいと思えます。



「さがみ」乗組員集合写真（於：神戸港）

～What's New On SAGAMI～

【ライブカメラ】(AISライブジャパン)



事務所パソコンやスマホから、インターネット回線を介して、航海状況や荷役状況がリアルタイムにモニタリングできます。また、過去一週間の映像が保存されています。船内では、船長、一航士、二航士室及びサロンのTVモニターに、電子海図位置画像と共に、表示可能です。

【エコねんぴシステム】

(阪神内燃機工業)
エンジン状態・燃費などがモニタリングできます。



「さがみ」にはこんな設備が!!

【エアバラスト式排水システム】



ブリッジと事務室でバラスト調整ができます。バラスト水の注排水は、空気圧を利用したエアバラスト式を採用し、排水時間の迅速化を図りました。

【ポンツーン型ハッチカバー及びフルオートツイストロック】

従来のホールディング式に比べ、荷役効率、積付効率UPになります。ハッチの開閉は、陸上クレーンで行われます。また荷役作業の安全と作業の効率化のため、コンテナ連結資材を当社では初のフルオートツイストロック方式を採用。岸壁サイドで脱着作業を完了しデッキ上での高所作業を回避しました。

